



「現場の声を届けて
社会を動かせることは
この仕事最大の醍醐味です」



「伝える側だけでなく
政策を作る側に
携わってみたい」

「わたし」から始まる政治

衆議院議員

岡野 純子

国民民主党千葉県参議院第1総支部長

小林 さやか



現場の声を届けて社会を動かせることはこの仕事の最大の醍醐味です」



岡野

「茨の道でした(笑) 男性議員からは、『病気の子どもを他人に預ける施設を作ろうとするなんてお前の血は何色だ』と言われることもありましたが、でも、核家族が多いこの地域でいざという時に頼る人がいない、そんな綱渡りのような子育て環境ではいけないという強い思いがありました。駅前でアンケートを採ったり、当事者を連れて市長室に直談判に行ったり、様々な声を伝え続けました。何年もの間、病児保育施設を作る。この答弁を引き出せたんです。議場でその声を聞いた時は震えましたね。現場の声を届けて社会を動かせることはこの仕事の最大の醍醐味です」

小林

「シングル家庭も増える中、頼る家族が近くにいない方は増えていきますよね。でも、そうしたニーズは、かつてはなかなか理解されなかったのではないのでしょうか？」

岡野

「ママ友の涙がきっかけでした。子育てをしながら働いていたママ友が、離婚したことを理由に関わっていたプロジェクトから外されてしまったんです。彼女は、『子どもの熱で、いつ仕事に穴開けるかわからないから仕方ない』と自分を納得させながら、でも泣いていた。その涙を見た時に、病気の子どもを預かる仕組みを作るのは行政の責務だと思いました。彼女と一緒に泣くだけでなく、問題点を解決したい。病児保育施設新設を求めて浦安市議会選挙に挑戦したのが始まりでした」

小林

「飛び込む前は自分に本当にできるのか、不安でいっぱいでした。毎日新しいことの連続で戸惑いもありますが、様々な場所に出かけ、出会った方たちのお話を聞かせていただくのは前職の記者と共通していると感じています。同時に、聴くだけではなく、しっかり政策に反映させていかなくてはという責任感も覚えています。岡野さんは何がきっかけで政治家になるうと思われたのですか？」

岡野

「今日とはよろしく願います。公認決定から今日まで、政治の世界に転身して率直にどんな感想をお持ちですか？」

普通の女性が政治の世界へ一きっかけはママ友の涙



生の声届けたい。女性として議場に立ち続ける意義

小林

「私が今回挑戦することを決めたのも、まさに岡野さんのように困りごとを聴くだけではなく、解決するところまで携わりたいと思ったからです。これまで取材の中でご友人のように自分の力でどうしようもできない現実について悩んでいる方の声を数多く聞き、どうにかしたいと思うことが何度もありました。そうした声を放送で伝えてきたのですが、実際に現実を変えるのは誰かの手に委ねなくてはなりませんでした。伝える側だけではなく、政策を作る側に携わってみたいと思うようになったんです。岡野さんの政策は私たち女性のニーズに寄り添ってくれるものがとても多いと感じていますが、政治の世界に女性として立ち続けるご苦労はありましたか？」

岡野

「私が初めて議場に立った15年前は、女性議員は数の上でも影響力という面でも今よりもっと弱かったです。でも、国民の半分は女性なのに男性が机上で女性の支援策を作っても現実との齟齬は避けられないと、周産期・育児・女性活躍・教育：『当事者の生の声・現場のリアル』を伝えるように常に努めてきました。授乳室を作ってほしいという話を議会で取り上げたときは、議場で男性にクスクス笑われることさえありました。その時は笑われて恥ずかしいかと思いますが、今やあらゆる公共施設に授乳室が作られました。やってきたことは無駄じゃなかったと思います」



小林

「岡野さんが1人の女性として議場に立ち続け、当事者としての感覚を政治に届け続けてくれていることはすごく意義深いと感じます。私自身も、これまで取材の中で介護など家族のケアを抱えながら低賃金で働く女性、身近な大人から性被害にあった女の子など、深刻な状況を取材してきましたが、本当につらく困っている人は声も出せない。そんな中で振り絞るように出した声を拾って、政治の世界にはなかなか届かないし、制度は変わらなく、政治の世界にはなかなか届かないし、制度は変わらなく、若い方全体に広がっていると思います」



岡野

「でも本当は、政治はその『声にならない声』を聞くためにありますよね。国民民主党の旗幟である『つくるう、新しい答え』というフレーズにそういった想いが詰まっています。小林さんが議員になったら、また風景が変わると思います。誰よりも現場を見てきた人の目線が加わることで、政治がもう一步、現実に近い」

小林

「声を上げたらちゃんと届くん、未来は良くなるんだ、と若い人に思ってもらえるような政治、社会を作ってきたいです」

岡野

「この想いがどうかみなさんに届いてほしい。小林さんのような人がある限り、政治は変われる。これから、一緒に頑張りましょう！」

「つくるう、新しい答え」政治をあきらめないために

岡野純子プロフィール

1978年6月10日生まれ。同志社大学文学部英文学科卒業。
元 NHK松山放送局アナウンサー、2011年から浦安市議会議員3期務める。
第50回衆議院議員選挙（2024年10月）にて、比例区南関東ブロックより当選。
＜家族＞夫、高2と小5の娘の4人家族
＜趣味＞料理、ランニング、落語、民謡、サックス、水泳、ゴスペル

小林さやか プロフィール

1983年9月千葉県市川市生まれ。須和田幼稚園（市川市）卒園、真間小学校（市川市）卒業、桜蔭高等学校卒業、東京大学法学部卒業。
2007年4月に日本放送協会（NHK）入社。地方局・社会部記者などを歴任。18年間勤める。2025年2月国民民主党千葉連副代表就任。
＜家族＞夫・子ども3人+保護猫
＜趣味＞史跡巡り、読書、スポーツ観戦

国民民主党が手取りの増やす夏にする！

